

AMDAダイジェスト

発行：1995年12月

発行元：〒700岡山市植津310-1

AMDA (アジア医師連絡協議会)

TEL086-284-7730 FAX086-284-6758

InterNet: <http://www.amda.or.jp>

編集者：田代邦子、飯島恵美

AMDA 事務局長就任のお知らせ

今までAMDAには専任の事務局長が不在でしたが、以前よりAMDA事務局の活動を支えて下さっていた近藤祐次氏がこの十月より正式にAMDA事務局長に就任しました。ここに近藤氏の就任の挨拶を掲載させていただきます。

～近藤事務局長就任挨拶～



10月1日より専任の事務局長として就任致しました近藤です。皆様には常日頃よりAMDAの活動に暖かい御理解と御支援を頂き厚くお礼申し上げます。従来は岡山大学医学部の山本秀樹医師が兼任で事務局長の重責を果たして来られましたが、AMDAの活動の拡大・充実に伴い、事務局機能の強化の必要性が生じ、この度縁あって私とその職責を専任として引き継がせて頂くことになりました。本日はこの紙面を借り

まして、皆様に一言御挨拶を申し上げます。

私は過去に企業及び助成財団で働いて来ましたが、特に助成財団ではアジアの発展途上国の開発NGO活動の支援や日本国内のNGOの様々な活動の支援を行って参りました。財団の業務を通じて国内外の多くのNGOと関わりを持ってきた経緯を基に、以前から私はAMDAを世界的な活動拠点の広さと、医師と看護婦が専門的な技術で援助活動を行っているという点で、日本では極めて珍しい国際的NGOであると評価していました。2年前からはAMDAが主催する「国際貢献NGO懇話会」のメンバーとなり、その後菅波代表から「是非AMDAに」と声をかけられ、この度の事務局長就任となった次第です。皆様の日頃の御支援のお陰により、AMDAも今年は念願の国連NGOとなり、今や世界11カ国に約50名の医師、看護婦、コーディネーターを派遣して活動する団体となりました。また本年は1月の阪神大震災を始めとして、サハリン、北朝鮮、インドネシア、メキシコ、フィリピンなどの各国に緊急救援活動を実施して参りました。同時に「72時間ネットワーク」及び「アジア太平洋緊急救援 (APRO) 構想」の設置など緊急救援体制の充実も図って参りました。今後はAMDAの財団が、AMDA国際大学設立、AMDA・連合・部落解放同盟の共同による南アフリカ駐在員事務所開設など、数多くの活動が計画されております。人々がお互いに助けあうという「相互扶助思想」を基に、日本が真の「人道援助大国」と呼ばれる日を目指して、私たちAMDAは世界に向けて援助活動を推進して行きたいと思っています。一人一人の力は小さくても、皆の力を合わせれば大きな力になります。私たち事務局は皆様の一人一人の力を集めて、一人でも多くの困っている人々へ届けるよう邁進努力していく所存です。皆様のAMDAへのさらなるご支援をお願い致しまして、ご挨拶に変えさせていただきます。

APRO 機構発足

(国際医療協力 vol.18No.10 より)

10月8日 岡山国際交流センターにおいて、16ヶ国からのNGO・アジア太平洋緊急救援機構を発足させた。参加国はオーストラリア、バングラデシュ、ブラジル、カナダ、フィジー、インド、インドネシア、日本、韓国、ネパール、ニュージーランド、フィリピン、ロシア、スリランカ、タイ、アメリカである。

AMDAが10月6日～8日の間に主催したフォーラムで、各参加者は単純、複合災害に対処するために、政府と国際組織の努力の必要性、自身の長所短所を認識し救援活動が相互補完はするが重複しないようにする必要性を確認した。救援活動に対する需要と限りある資源の有効活用のバランスの重要性も指摘された。これらすべての事情を考慮して緊急事態準備体制と支援活動に備えた、人的、物的、経済的資源の調達、調整するための手段として、APRO機構を設立した。

具体的には、AMDAがAPRO機構事務局を岡山に設置することになり、事務局はアジア太平洋の国々が直面している強み・弱点の評価を行うフォーラムや、会議を地域別、地方別に開催する、緊急事態に能率的、効果的に対処するための通信、輸送、ロジスティックス等の操作システムを確立する、各国政府、国連諸機関、資金提供者やその他の関係諸団体との連携を確立するといったことに責任をもつ。

APRO機構最初の行動として、参加メンバーはAMDAが緊急事態準備体制や救援活動に対処できる人材養成の学術機関創立を支援していく事を約束した。もう一点は、10月7日にインドネシアのジンバをおそった地震に対し、AMDAはインドネシア赤十字、AMDAインドネシアと協力して、現地の救援活動を支援するための医療チームを直ちに派遣した。



国連でのNGO協議資格取得について

(国際医療協力 vol18.No.7より抜粋)

高橋 央

さる6月20日にニューヨークの国連本部で開かれた、国連経済社会理事会NGO部会第571回審議で、AMDAインターナショナルにNGO協議資格(Consultative Status Category 2)が与えられました。

日本に本部をもつNGOでこの資格を有する団体は今まで8つしかなく、保健医療分野のNGOではAMDAが初めての取得となります。AMDAインターナショナルが設立されて10年余り、また国連も6月26日に創設50周年を迎えた節目のようこの時期に、我々がかねてより切望していた荣誉ある、影響力の大きい資格を得ることが出来ました。

この資格を取得する意義、その内容と問題点、それに取得に至るまでの道程とこの資格の今後の活用方針について説明いたします。

〈国連でのNGO協議資格とは〉

本資格の付与は、1950年初頭に採択された国連憲章第71条(文末参照)、及び第71条に準拠して同年2月採択の経済社会理事会決議第1296号(XLIV)に基づいている。協議資格はその後1968年に全面改訂され、現在は3つの協議資格に分けて与えられている(文末参照)。その概要を見て判るように、国連側のNGOに対する重視度、NGO側からの影響力共にカテゴリー1)カテゴリー2)ロスター順に強く設定されている。

今回AMDAインターナショナルに付与されたカテゴリー2は、保健医療分野の活動のみのNGOには最高の資格である。

わが国のNGO関係者には余り知られていないこの協議資格の意義は、実は近年ますます増大している。その理由は文末の年表にあるような国連主催の国際会議で、NGOの発言が影響力をもち始めているためである。NGO活動による民間の主張を、NGOは国連を通じて世界に広めている。特に1992年リオで開催されたアースサミットでのNGOの活躍ぶりは世界的に注目され、これを契機に多くのNGOが協議資格を望むようになったと云える。前回の資格審査に申請した団体数は44であったが、本年の申請数は94に跳ね上がっており、この増加傾向は今後も続くと思われる。

〈協議資格の内容と問題点〉

国連でのNGO協議資格は今後急速に重要となっていくことは明らかだが、それぞれの資格でどのような活動を展開出来るかを考えてみる。

まず有資格NGOが参加出来る会合だが、カテゴリー1と2は経済社会理事会(経社理)及び(WHO、ILO、FAO等)その下部機関の公式会合へのオブザーバーとしての出席が許されるが、ロスターではその専門分野に関連する会議へのオブザーバー参加のみ認められている。会合での発言はカテゴリー1と2のみ可能であるが、発言すべきNGOは国連NGO委員会の経社理への勧告により選ばれる。またカテゴリー2への発言は、カテゴリー1に適切なNGOがない場合に指名される。国連文書として配布される声明書は、カテゴリー1・2とも2千語以内で提出出来るが、ロスターのNGOでも事務総長の求めに応じた声明書の提出が可能である。国連NGO委員会を通じた議題の提出はカテゴリー1にだけ認められている。

世界中のNGOにはそれぞれ異なる活動趣旨と活動規模があり、それに見合った資格を国連が付与するのは基本的には合理性がある。また活動の拡大により、資格の変更も随時行われるよう工夫もされている。実際に本年審査されたNGO 90団体のうち、約2割はこの資格変更の申請であり、今回日本に本部を置くNGOとしては初めて(財)オイスカ産業開発協力団(OISCA)が、カテゴリー2から1への格上げが認められた。

審査を受けるNGOは、審議前に国連NGO委員会より事前審査に近い活動実績の検討がなされるため、審議で資格が与えられないことは例外的であった。しかし希望する資格が付与されなかったり、審議が先送りされることは時おり見られた。

〈国連憲章第71条〉

「経済社会理事会は、その権限内にある事項に関係のある民間団体(non-governmental organization)と協議するために、適当な取極を行うことができる。この取極は、国際団体との間に、また、適当な場合には、関係のある国連加盟国と協議した後に国内団体との間に行うことができる。」

〈NGOの協議資格(Consultative Status)の分類〉

カテゴリー1: 経社理の活動の大部分に基本的利害関係を持つNGO

カテゴリー2: 経社理の活動の若干の分野にのみ特別の関係をもつNGO。

ロスター: 経社理あるいは事務総長が、経社理またはその下部機関等に対して有益な貢献が可能であると判断したもの、及び専門機関または他の国連機関との協議資格を有するもの。

----- 年表 -----

国連主催の主な国際会議(1990年以降)

- 1990年 子供のための世界サミット(ニューヨーク)
- 1992年 地球開発サミット(リオデジャネイロ)
- 1993年 国連世界人権会議(ウイーン)
- 1994年 人口と開発国際会議(カイロ)
- 5月 国際防災世界会議(横浜)
- 8月 第10回国際エイズ会議(横浜)*
- 1995年 世界社会開発サミット(コペンハーゲン)
- 第4回世界女性会議(北京)

*アムダが協力したチェンライプロジェクトが発表された。



ニューヨーク国連本部前にて高橋副代表

朝鮮民主主義人民共和国緊急救援医療活動報告

(国際医療協力 vol.18No.9 より)

概要

AMDAでは国連人道問題局からの調査報告と朝鮮民主主義人民共和国ジュネーブ事務所からの強い要請を受けて、このたび朝鮮民主主義共和国での大洪水の被災者に対し緊急救援物資援助を行うことを決定致しました。

この一月の阪神大震災の折には朝鮮民主主義共和国からも国際赤十字を通じ被災者の救援のための善意の義援金が寄せられました。その折りの好意に対してお返しをする機会として在日朝鮮人総連合会等関係団体のご協力をいただき、今回の救援活動を行っていく予定です。

詳細は以下の通り。

救援物資

1. 輸送日時 1995年9月13日
2. 輸送手段 万景峰 Man Gyong Bong- 92 (5) (新潟発 10:00) にて
3. 物資内容 WHO The new emergency health kit 約2.8トン

・ Basic unit /30000人対象 3ヶ月用
(医薬品、医療消耗品、医療器具)

・ Supplementary unit /30000人対象 3ヶ月用
プロジェクト概要

8月23日 国連人道援助局より朝鮮民主主義人民共和国大洪水被災状況についてのファックによる情報提供あり

9月2日 朝鮮民主主義人民共和国ジュネーブ事務所からAMDAへの援助要請有り

9月5日 International Dispensary Association (オランダ アムステルダム) へ The new emergency health kit を発注輸送手段の検討を始める。

9月8日 日本船舶振興会へ緊急災害援助として500万の資金提供の申請 (9/11 決定)

9月9日 第一陣を新潟より船便で出すことを決定

9月11日 朝9:30 KLMオランダ航空機にて関西空港に到着、陸路にて新潟へ

9月12日 新潟税関にて朝鮮への通関業務を行う

9月13日 万景峰 92便 (新潟発 10:00) にて朝鮮民主主義人民共和国へ9月14日 16:00ごろ 朝鮮民主主義人民共和国元山へ到着現地受け入れ業務は朝鮮民主主義人民共和国が行う

* 第2陣出発日、輸送機関については各方面の協力を得て現在交渉中。

* AMDA は、インターネット上でも、北朝鮮関連の情報を提供しております。随時更新していく予定です。ぜひ一度ご覧下さい。AMDA INTERNET STATION へのアクセスは、WWW ブラウザにて <http://www.amda.or.jp> の入力で可能になります。

アンゴラでの緊急救援医療プロジェクト

(国際医療協力 vol.18No.9 より)

医師 William N Grut

アンゴラでの活動を展開するには非常に困難な地域であるにもかかわらず、その地域は大変大きいものである。その地域でもどんな内容でも、プロジェクトの展開は可能である。AMDA は以下のようなプロジェクトの実施/経費レベルや地域を選別して活動展開することができる。

1) ルアンダ市内またはルアンダ市近郊でのマイクロプロジェクト

例: 家を失くした人のキャンプでの医療活動。FAX ですでお知らせしたとおり 経済的でしかも組織しやすい。

2) ルアンダから車で約1時間のところでのヘルスケアプロジェクト。

1) をより拡張したもの。比較的、経済的だがプロジェクトの規模による 1) 2) とともに住居/オフィスと1台の車が必要

3) 「遠距離地域プロジェクト」...Sanza Pombo 地区

大きなプロジェクトになると、ルアンダと Sanza Pombo 地区にオフィスを構える必要がある。地方にだいたい2台とルアンダに1台の車両が必要。

AMDA のような国連登録団体のために PAM / WFP (ワールドフードプログラム) が、車のような大きな荷物でも空輸してくれる可能性あり。また、和平が保たれば、地上輸送もできるようになる。AMDA が医薬品定期供給システムを構築し、一般供給物資輸送の支援を行う必要性が出てくるだろう。

また「トラブル地域」としてザイルが挙げられる。国境を接する北アンゴラ付近でのいさかいでAMDAの支援が必要となるかもしれない。その際、ルアンダオフィスが重要な役割を担うだろう。

ルアンダオフィスは、コーディネート業務の中核として機能する必要あり。医薬品の船便輸送(現地で購入するより輸送したほうが廉価)の整備、他 NGO/UN/WHO/WFP との関係構築、その他輸送整備、会計/会計監査/経営管理の実施、AMDA もしくはAMDA に関連のある人のための居住施設確保、さらに、国の中心地でAMDA の目的を前面に打ち出す役目も果たす。

“AMMD” は現地でのAMDA の通称であり、直訳では“AMMA” -Associacao Medica de Medicos para a Asia となる。PAM はWFP、OMS はWHO、NU はUN のことである。この通称の使用は他の団体同様徹底されている。

アンゴラでのNGO登録を現在進行中。

【まとめ】

アンゴラでのAMDA の活動展開は非常に歓迎されている。人道援助の必要性が迫られていることもあるが、この地域には世界最大の援助国である日本からの代表が他にいないということもある。

医療援助の観点から見て、求められているものは非常にシンプルである。食餌、流行感染症の治療、分娩助産、基礎的ヘルスケアプログラム、教育などでどれもむずかしいものではない、1-2人の医療従事者、輸送手段、適当な医薬品の供給などが必要となる。絶望的に弱り切っているこの地域に、大きな助けとなるであろう。



アンゴラの病院にて 左、菊池コーディネーター

インドネシア・スマトラ大震災緊急救援プロジェクト
(国際医療協力 vol18No.10 より抜粋)

医師 三宅 和久

【概要】

10月7日1時9分 スマトラ中西部ジャンビ県スンガイプス市近郊にてマグニチュード7.5の地震が発生。同日AMDAは岡山にて「APRO/アジア太平洋緊急救援フォーラム」を開催中だったが、死者が100名を越す模様との情報を受け、午後15時に医療チームの派遣と医薬品搬入を決定した。

第一陣はAPROに参加していたシャリフ医師、三宅医師、服部調整員。医薬品80Kgを持って10月8日に日本を出発した。次に続く第二陣は、深谷医師、860Kgの医薬品を持って10月15日に出発。



「ボランティアへの招待状」

鶴藤 浩徳

今は11月中旬、平日はボランティアに来るようになって2ヶ月が経った。平日の昼間からいつも好青年(!)がいるものだから、最初はよく不思議がられた。そしてよく訊ねられた。AMDAはどこで知り、どうしてボランティアに来るようになったのか。実はAMDAをいつ、どこで知ったか定かたではないし、どうしてボランティアに来るのか、自分でもはっきりしない。聞かれる度に色々考えて答えをひねり出していたものの、以上の答えが正直なところだ。

ボランティアをする「理由」…なんて大仰なものなくてもいいのではないだろうか。少なくとも私の目には、AMDAに来るボランティアの方々は、あまり「自覚」していないように見える。訊ねられれば恥ずかしそうに答えるけれども、本当の「理由」はほかにあるように思える。言葉になった「理由」は行動の後ろからついてくるものと思うからして「理由」が先で「行動」が後の人、用意周到、やる気満々の人は(私のひがみ目で見て)、途中で挫折しやすいという気がする。それよりも軽い気持ちで、空いた時間に活動する。もちろん自分が任された仕事は責任を持ってやり遂げる。これが長く続ける「コツ」ではなかろうか。ただボランティアにも色々種類がある。一人でするもの、仲間と共同してするもの。人を相手にするもの、機械を相手にするもの。家の中でするもの、家の外でするもの。その人その人によって向き不向き、適性があり、置かれた状況も異なる。仕事を選ぶように、伴侶を選ぶように、あなたに合ったボランティアが見つかれば、あなたの人生の彩りも増すに違いない。あなたもボランティアをしてみませんか。

AMDA Internet Station 供用開始によせて

(国際医療協力 vol18No.8 より抜粋)

学術委員会 高橋 央

AMDAでは本部事務局にUNIXワークステーション(NEC社製EWS4800)を設置し、7月31日よりインターネット上にAMDA Internet Stationというコンピュータによる情報サービスを開始しました。

日本支部では次の3点を教訓として、コンピュータネットの再構築に備えました。まずAMDA会員ばかりでなく、第三者が必

要な情報を、データベースまたはニュース形式で発信出来るようにすること。第二に効率的な募金や人材募集活動の出来る窓口機能を整備すること。さらに海外のNGOや国連機関なども容易に情報交換が可能なことの3つです。

第1の点に関しては、熱帯医学のデータベースを作成するとともに、「国際医療協力」に載せるニュースの量を増やしてきました。第二の点については、本部に人材開発のためのデータベースを作り、充実させました。第三の点は90年代に入ってコンピュータがますます廉価かつ高性能になったこと、そしてインターネットが一般に開放されたことで条件が揃いました。

パソコンとインターネットの爆発的な普及で、世界中には独自のネットをもつNGOが沢山あり、CONGOやAPCといったNGOのネットを統括するNGOも出てきています。

何故世界のNGOがこれ程までコンピュータ化を急ぐかというところ、コンピュータネットには情報の迅速性(瞬時に世界中と通信出来る)、平等性(情報内容に偏りが無い)、多方向性(情報のやり取りが複数間で可能)があるためです。「電気も来ていないような所で農村開発をするのに、インターネットは必要ない!」と反論する方もおられるでしょうが、先進国、途上国を問わず、コンピュータネットが全世界で重要な社会基盤を占めることは明らかで、過小評価出来ない状況です。

職場や学校、または自宅で、是非一度コンピュータネットに接続してみてください。AMDA Internet StationのURL名(ホームページに入るための記号)は、<http://www.amda.or.jp>です。

AMDA 近況

- '95.6: 国連でのNGO協議資格(カテゴリー2)取得
- '95.7: AMDA 国際医療情報センター第2回医学生・看護学生のためのエイズ集中セミナー(大阪)
- '95.8: 第28回岡山県三木記念助成金受賞
- '95.9: 第2回国連プロスト・ガーリ賞受賞
- '95.9: 朝鮮民主主義人民共和国緊急救援プロジェクト開始
- '95.9: アンゴラ帰還難民緊急救援プロジェクト開始
- '95.10: AMDA「アジア太平洋緊急救援フォーラム」開催/岡山
- '95.10: インドネシア・スマトラ島大震災緊急救援プロジェクト
- '95.10: 第25回毎日社会福祉顕彰受賞
- '95.10: ソロプチミスト日本財団「国際奉仕先への助成金」受賞
- '95.10: 第2回読売国際協力賞受賞
- '95.10: メキシコ大震災緊急救援プロジェクト
- '95.10: 第7回毎日国際交流賞受賞
- '95.11: AMDA インターナショナル国際会議開催/フィリピン
- '95.11: フィリピン台風被害緊急救援プロジェクト
- '95.11: 読売国際協力賞フォーラム「AMDAと国際貢献」/大阪
- '95.11: '95おかやま国際貢献NGOサミット開催
- '95.11: サハリン州知事より感謝状を授与される
- '95.11: インドネシア大使より感謝状を授与される
- '95.12: 国連NGO認定記念祝賀会

編集後記

- ・皆様の御意見をお寄せください。なお、事務局ボランティアを募集しています。AMDA事務局へ一度いらっしやいませんか。(田代)
- ・AMDAはどんどん発展していきます。久しぶりに事務所を訪ねると浦島太郎です。(飯島)